

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第2部門第4区分  
 【発行日】令和5年3月3日(2023.3.3)

【国際公開番号】WO2022/014588  
 【出願番号】特願2022-536390(P2022-536390)

【国際特許分類】

**B 3 2 B 27/28(2006.01)**

**C 0 9 J 123/04(2006.01)**

【F I】

B 3 2 B 27/28 1 0 1

C 0 9 J 123/04

10

【手続補正書】

【提出日】令和4年12月9日(2022.12.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0018】

エチレン-不飽和カルボン酸共重合体(a)に含まれる不飽和カルボン酸に由来する構造単位の総含有量(酸含有量)は、樹脂(X)中に含まれる重合体の単量体に由来する構造単位の総量に対して、好ましくは5質量%以上、より好ましくは8質量%以上であり、1.8質量%未満が好ましく、16質量%未満がより好ましい。上記不飽和カルボン酸に由来する構造単位の総含有量(酸含有量)が上記範囲内であれば、得られる積層体が優れた低温接着性、耐水性および耐熱水性を有し得る。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0019】

エチレン-不飽和カルボン酸共重合体(a)に含まれるエチレンに由来する構造単位の総含有量は、樹脂(X)中に含まれる重合体の単量体に由来する構造単位の総量に対して、好ましくは82質量%以上、より好ましくは84質量%以上であり、9.5質量%未満が好ましく、92質量%以下がより好ましい。上記エチレンに由来する構造単位の総含有量が上記範囲内であれば、得られる積層体が優れた低温接着性、耐水性および耐熱水性を有し得る。

【手続補正3】

40

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

中和度が上記範囲であれば、水分散体から、ヒートシール強度に優れる接着剤層が得られる。なお、中和度は、後述する実施例に準拠して算出される。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

50

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0061】

水分散体の粘度（測定方法：B型粘度計）は、塗工適性の観点から25において、好ましくは10 mPa・s以上、より好ましくは50 mPa・s以上、好ましくは900 mPa・s以下、より好ましくは500 mPa・s以下である。

## 【手続補正5】

## 【補正対象書類名】明細書

## 【補正対象項目名】0088

## 【補正方法】変更

10

## 【補正の内容】

## 【0088】

前記被着体層は、積層体に含まれる基材と同様の物が挙げられる。被着体層としては、アルミニウム箔などの金属箔、紙、不織布、プラスチックフィルムおよび蒸着フィルムが好ましく、アルミニウム箔などの金属箔および紙がより好ましい。これら被着体層は、単独で使用してもよく、2種類以上併用してもよい。

## 【手続補正6】

## 【補正対象書類名】明細書

## 【補正対象項目名】0097

## 【補正方法】変更

20

## 【補正の内容】

## 【0097】

## [製造例1]

メタクリル酸の含有量が15質量%のエチレン-メタクリル酸共重合体（樹脂B）50質量部、およびメタクリル酸の含有量が10質量%のエチレン-メタクリル酸共重合体（樹脂C）50質量部を熔融混練した樹脂と、水酸化ナトリウム4.4質量部、並びに脱イオン水190質量部を反応容器に入れて攪拌し、150に昇温して4時間保持した後、室温まで冷却して樹脂1の樹脂粒子1の水分散体1を得た。樹脂1中のメタクリル酸に由来する構造単位の含有量の平均値（酸含有量平均値）は12.5質量%であり、樹脂粒子1の重量平均粒径は0.5 μmであった。また、水分散体1の粘度は400 mPa・sであり、不揮発分（Nv）は35%、メルトフローレート（MFR）は3.0 g / 10分であった。

30

## 【手続補正7】

## 【補正対象書類名】明細書

## 【補正対象項目名】0099

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0099】

## [製造例4]

アクリル酸の含有量が20.5質量%のエチレン-アクリル酸共重合体（樹脂A）30質量部、およびメタクリル酸の含有量が4質量%のエチレン-メタクリル酸共重合体（樹脂E）70質量部を混合したものを、2軸スクリュ-押出機（池貝鉄工株式会社製、PCM-30, L/D=40）のホッパーより50 g / 分の速度で供給し、同押出機のベント部に設けた供給口より水酸化カリウムの3.5%水溶液を28 g / 分の割合で連続的に供給し、加熱温度110で連続的に押し出し、該押し出された樹脂混合物を同押出機口に設置したジャケット付きスタティックミキサーで90まで冷却し、さらに80の温水中に投入することにより水分散体4を得た。樹脂粒子4の重量平均粒径は0.9 μmであった。また、水分散体4の粘度は300 mPa・sであり、不揮発分（Nv）は37%、メルトフローレート（MFR）は1.0 g / 10分であった。

40

## 【手続補正8】

50

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0106

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0106】

(カップ耐熱水性)

上記紙塗工品1を用いて成型した紙カップに、95以上の熱湯を注いで1時間放置し、シール接着部からの水漏れを観察し、表3に記載の基準に従って評価した。結果を表4に示す。

【手続補正9】

10

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0113

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0113】

[測定方法]

(酸含有量平均値)

酸含有量を、樹脂に脱塩基処理を施した後にテトラヒドロフランに熱時融解し、加熱状態で規定濃度の水酸化カリウムで滴定することにより測定し、酸含有量平均値を算出した。

20

30

40

50